

むらの理論

農村社会・社会学特殊研究 第7話

秋津元輝(農学研究科)

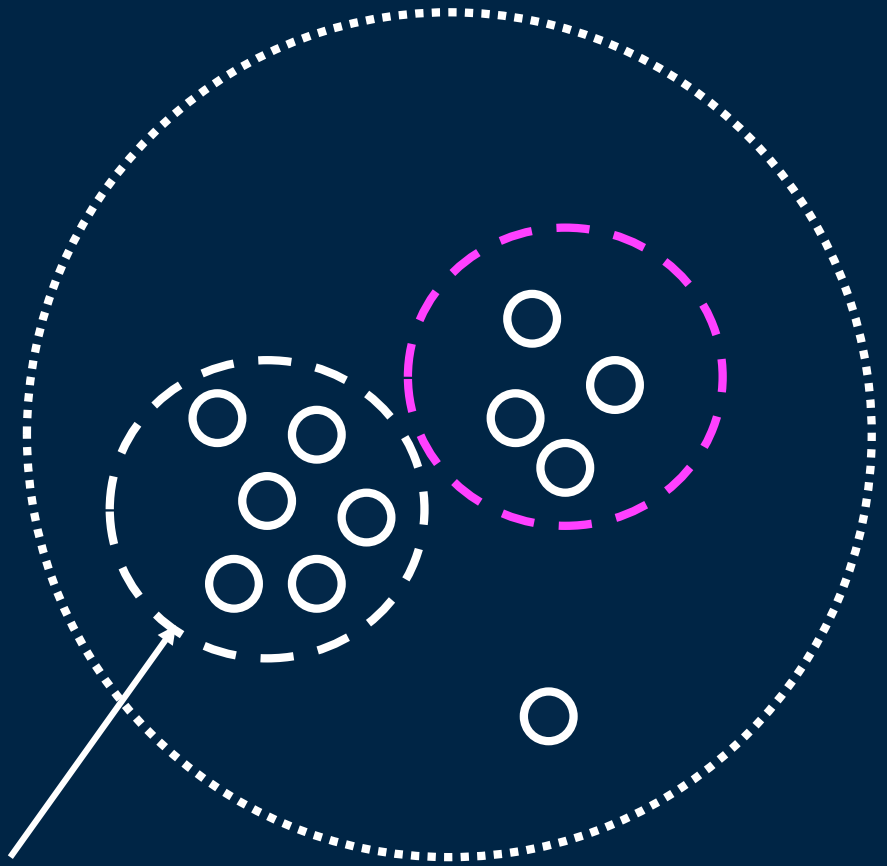
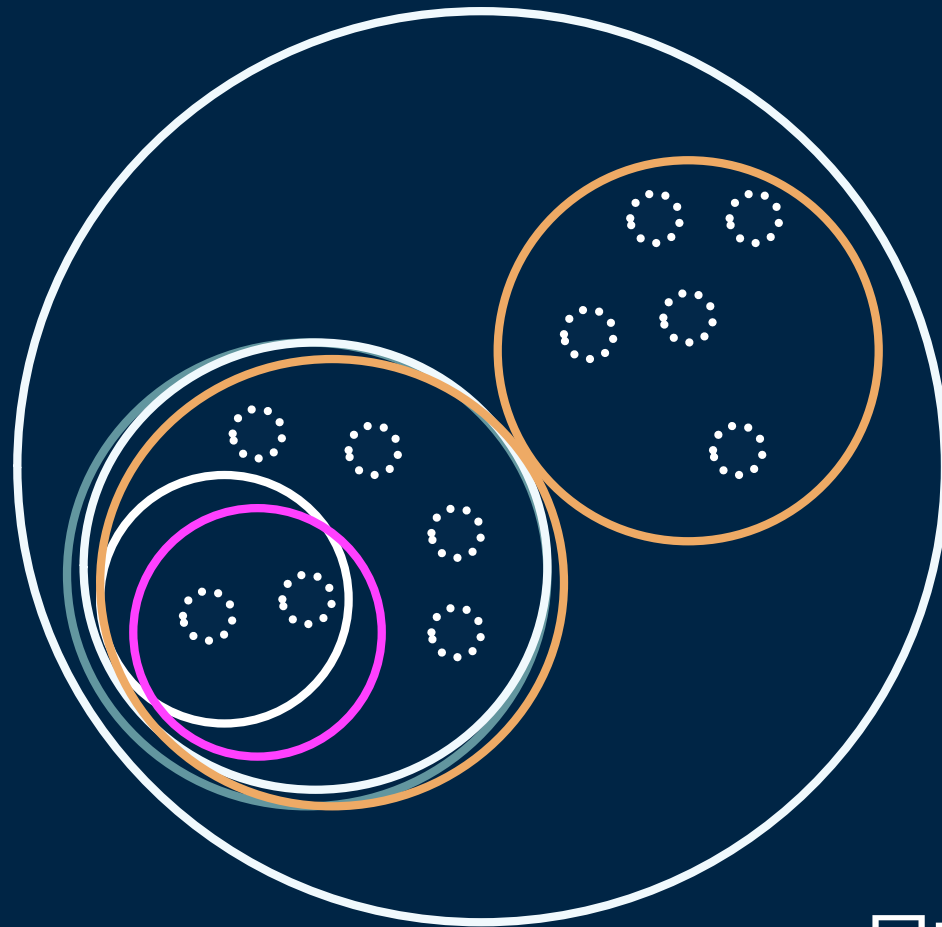
「自然村」の理論

- ・ 「自然村」
 - （韓国では「자연부락」）
 - 鈴木榮太郎（1884～1966）
 - 東京帝大卒→・・・→京城帝大→北海道大→東洋大
- ・ 集団の累積状態を通じてみる農村社会
 - cf. 「家連合」

社会的まとまりの考え方

集団累積体

家連合



● ○ 家の単位

同族団など

10種類の地域集団

1. 行政的地域集団・・・町または村
2. 氏子集団・・・神社
自然村の範囲と関連
3. 檀徒集団・・・寺
地域社会の範囲に無頓着
4. 講中集団・・・秋葉講、金比羅講、観音講（老婦人）、など
飲食を共にする、成員は対等の権利を持つ
5. 近隣集団・・・村組、近隣組
村組の例；「瀬古」（愛知県渥美） 「同行」（香川）

続き

6. 経済的集団・・・土地総有団体、無尽、農家小組合（大正末より帝国農会の指導でつくられる、現在であればJAの下部組織）、など
7. 官設的集団・・・小学校、青年団、警防団、婦人会、など
8. 血縁的集団・・・同族団、など
9. 特殊共同利害集団・・・水害防衛集団、など
10. 階級的集団・・・地主組合、など

これらの多くはなぜなくなってしまったのか？

3つの社会地区



3つの社会地区のいずれかに地域集団が累積する

→ 第2社会地区 = 自然村

「村の精神」

- ・ 自然村には 「村の精神」 がある



- ・ 生活のあらゆる方面にわたる行動原理
 - 「精神」強化の具体的表現
 - 「精神」内容の表れ
 - 「精神」の作用形式：制裁

第2社会地区の特殊性

「精神」の存在



- 単に多くの集団が累積しているからではない
- cf. ギャルピン C. J. Galpin(1864-1947)
アメリカ農村で各種サービスの累積から
Rurban community を発見

自然村の「不自然」性

- ・ 政治制度的側面
 - 自然村は政治的に強化され、再編されてきた
- ↑
- ・ 末端行政組織として
- ・ 戦後
 - 農業政策におけるさまざまな利用

家とむらーどっちが優先かー

- 家優先
 - 家連合としてのむら
 - 東北、東日本か
 - ……
- むら優先
 - むらを分割するものとしての家
 - 関西、西日本か
 - ……

むらの一員になる

- 「むら入り」
 - 形式的
 - 実質的
- その他の集団活動への参加
- 関係への組み込み



親族とつきあいのネットワーク

参考：秋津元輝『農業生活とネットワーク』御茶の水書房、1998年